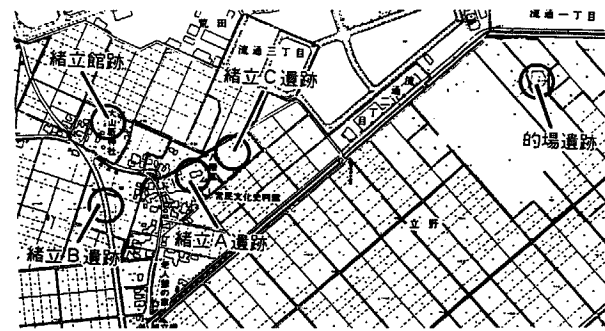
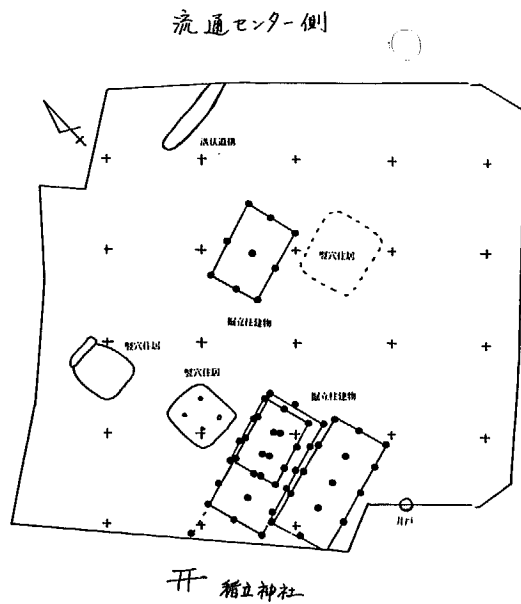


緒立遺跡で古代の生活に ふれる 緒立C遺跡紙上見学会



堅穴住居跡（下の発掘現場図の右上の点線で囲まれた部分）を見学する。土砂の山の向こう側は新潟流通センター。

発掘現場図



10月21日(日)、緒立八幡神社裏の緒立C遺跡発掘現場で、遺跡の現地見学会が行われました。町内外から約80人が参加し、緒立C遺跡の発掘に携わっている町職員らの説明を受けながら、発掘現場や発掘された遺物を見学しました。

緒立遺跡は本町の北西端の緒立地域にある遺跡で、今回見学会が行われた緒立C遺跡は緒立八幡宮の裏にあります。付近には緒立A遺跡、B遺跡、的場遺跡といった遺跡があります。（左地図参照）

この緒立C遺跡は、新潟流通センターが土地区画整理事業で拡張されることにより、消滅してしまいう可能性があったため、記録を残しておこうと、発掘調査が行われています。近くにある新潟市の的場遺跡も同じ理由から発掘調査が行われています。

緒立C遺跡で発掘調査されるのは約4500平方メートル。昨年の9月末から10月いっぱいまで流通センター側の2000平方メートルが発掘され、すでに埋め戻されています。今年に残り2500平方メートルについて4月から発掘作業が始められ、10月中に終了の予定です。その後、発掘現場は埋め戻されます。

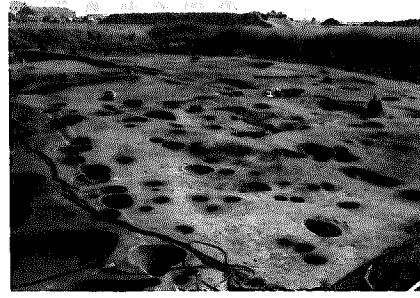
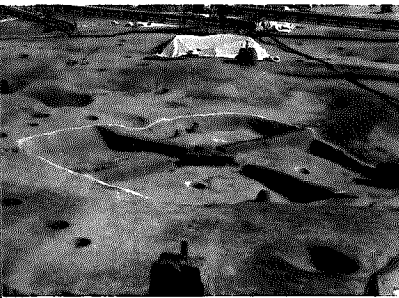
これまでの発掘調査では、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡や井戸跡、勾玉や管玉、土器、木簡などが発見されています。（次ページで一部を紹介）

緒立遺跡は、昭和27年に緒立八幡神社の境内で壱形土器が発見されたことで遺跡があることがわかりました。

緒立遺跡の発掘調査は、まず昭和32年から33年にかけて行われました。そして、53年から55年にかけて県道バイパス工事に伴い、緒立B遺跡の発掘調査が行われました。この時、縄文晩期から平安時代にかけての土器など古墳時代、奈良・平安時代の住居跡が発見されています。それらのうち、土器などは緒立の常民文化史料館に収蔵されており、見学することができます。

遺構（大地に残された生活の跡）

▼堅穴住居跡 地面を掘りこんでつくった家の跡。古墳時代だと思われるものが3軒みつかったが、そのうちのひとつで、発掘現場図の中央下のに当たる。

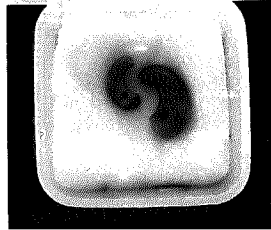


▲掘立柱建物跡 地面に穴を掘って柱を直接埋めた建物跡。堅穴住居と違い床が地面より上にある。奈良・平安時代のもと思われる。発掘現場図の下側で二つづらなっているもの。

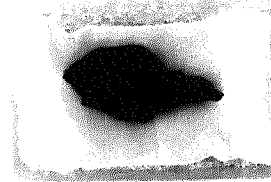
遺物（昔の人が使った道具など）



▼木簡 紙のない時代に紙のかわりに木片に墨で文字を記したもの。右は奈良・平安時代のもので酒杯等の注文札、中と左は中世のものでまじない札と考えられる。



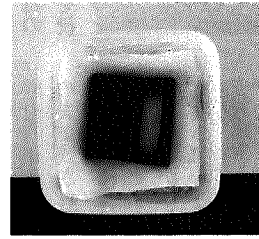
▲勾玉 2個発見された。小さい方（色は白っぽい）の材質はわからないが大きい方（薄い緑色）はヒスイ製らしい。古墳時代のも。弥生時代のもと思われる管玉も出土。



◎緒立C遺跡からはほかにも遺物として、日本で最初に作られた貨幣である和銅開珎（新潟市で現在発掘中の的場遺跡からも出土した）や縄文土器や土師器、須恵器等の土器などが多数出土しているほか、井戸跡から木製の井戸杵も出ています。

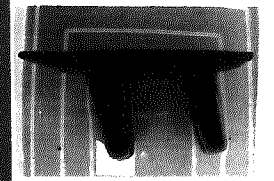


▶鉄製の矢じり 古墳時代のもと考えられる。
▼帯金具 布や革の帯にとりつける金具。奈良・平安時代のある時期にだけ使われていた。位によって大きさが違うと言われ、遺跡の性格を考えるうえで興味深いもの。



▲発掘された土器 緒立遺跡では約2200年前の縄文土器から奈良・平安時代の土師器、須恵器等が出土している。

▼木ゲタ 600～700年前の中世のもの。それ以前の奈良・平安時代のもも出土している。木製の遺物は乾燥に弱いので水につけて保存している。



参加者のひとこと

糸魚川から見学に来ました友達が遺跡を掘っていて、それを見てきてもらいました。実際に遺跡を見るのは感慨深いですね。このあと、県美術館の中国甘肅省文物展に行きます。



富井スミ子さん（糸魚川市）

巻と同じ遺物が見られます巻の史学会の仲間五人と見学に来ました。以前からこの遺跡には興味がありました。砂丘地の特徴ある遺跡ですが、巻あたりの遺跡とほとんど同じような遺物が見られますね。



山口栄一さん（巻町・75歳）